

学校便り

学校教育目標
 知徳体の調和のとれた品性ある子の育成
 ー笑顔いっぱいーの学校ー

考えを伝え合う子・できたわかったと思える子

思いやりを形で表す子

目標に向かって動く子

前期学校評価の結果のお知らせ

最近、日の入りが早くなるとともに冷え込みも厳しく感じられる頃となりました。しかし、前庭や運動場で元気に遊ぶ子どもたちの姿も見られます。学校では、この大切な子どもたち一人一人が成長していけるよりよい学校にするために、児童アンケート、保護者アンケート、教員アンケートを基に学校評価を行っています。前期の結果と改善策、学校関係者評価委員の皆様からいただいたご意見をお知らせいたします。

○アンケート結果より

	重点取組	指標・評価観点	評価方法	評価結果		今後
				前期	今後	
(「すでに考えを伝え合う子、分かったーできたい」と言える子)	・わかる授業を工夫する。	・具体物の提示、構造的な板書等の掲示がなされている。 ・児童が変容を意識するようにまどめや振り返りの場を設定している。	児童アンケート	86.4% B		広陽授業モデルを確認し、特に授業の後半を充実させ、習熟の時間を確保する。
	・全員挙手の場を設定する。	・広陽授業モデルの1時間の授業の中に全員挙手の場を設定している。	教職員アンケート	71.4% C		児童の聴く意識を高めるために、授業始めのふり返りや事実間などで全員挙手できる発問を意識的に取り入れた。日々の授業で既習掲示を充実させたり、大事なポイントで繰り返し問いかけたりするなど、誰もが言える場面を多く取り入れていく。全員挙手できるまで待つ。
	・根拠を明確にして説明ができる。	・グループ活動中及び前に出て、根拠を明確にして説明している。	教職員アンケート	61.9% D		何が根拠になるのか児童と確認して見通しを持たせていく。根拠や理由が言えたときには認めて、価値つけていく。必要に応じて、既習掲示や板書、全文シート等を指し示しながら話をさせる場を取り入れていく。
	・既習や学習用語を活用できるように掲示し、学習環境を整える。	・既習や学習用語の掲示を活用している。	教職員アンケート	80% B		学習計画を掲示して、児童が見通しをもって学習できるようにしたり、今後の学習に生かせる既習内容を掲示したりした。どの既習内容を掲示すべきなのか学年で相談し、吟味して活用していく。
生徒指導(思いやりを形で表す子)	・人にやさしくする。	・「ありがとう」「ごめんなさい」を言っている。 ・友だちが嬉しくなる言葉や行動をしている。 ・友達にやさしくしている。	児童アンケート	90.8% A		教師に促されると、素直に感謝や謝罪の言葉を言ったり、他の人が喜ぶ行動をしようとする児童がほとんどである。しかし、自分から言ったり、自分で考えて行動できる児童は、低・中学年ではまだ限られている。帰りの会の「今日のナイスさん」の取組を充実させる。自分からできた児童の行動を価値づけ、学級で広めていく。また、2学期から各教員が全校児童の良さを見つける「○○カード」を玄関に掲示することでその行動が全校に広がるように試みる。
	・自分から目を見て笑顔で明るい声で友だちや先生や地域の方、来校者に挨拶をする。	・先生や地域の方、来校者にあいさつをしている。 ・自分から明るくあいさつしている。	教職員アンケート	90.1% A 65.4% D		今年度は全校朝会が行われていないため、各担任によるあいさつのポイントの指導が不十分だったと考えられる。全校朝会で話すことを生徒指導部でパワーポイントを準備し、2学期初めから毎週初めに各担任で指導している。また、日常でそのあいさつができていくことを、日々声掛けしたり、○○カード等を用いて価値付けしていく。
	・時間を守る	・チャイムスタートをしている。 ・終了時刻を守っている。 ・時計を見て行動している。	教職員アンケート	90.5% A		6月はじめは意識して実行していたが7月に入りだんだん緩んできたように感じた。水泳授業も始まり時間内に移動しようという姿勢がなかなか難しいように感じた。月に一度、ルーチャイムデーを実施することで児童自ら時間意識について振り返る機会を設け、○分前行動などを話し合っ決めていく過程を大切にしている。
	・「おすじ掃除」をする。 ※「おすじ」おわりまで、すみずみきれいに、しゃべらずに	・必要のないことは話さずに掃除をしている。 ・自分からすみずみまで汚い所を見つけて掃除している。 ・落ちているゴミを拾っている。	児童アンケート	87% B		「おすじそうじ」に関しては、定着が弱い部分がある。そのため、教職員がそうじの時間、児童と一緒に掃除することで、おすじ掃除の指導をより細かくおこなう。また、教職員が落ちているゴミを率先して拾うことで、目指す姿を児童に見せていく。
	・いじめに対して、未然防止、早期発見に努め、組織的に対応する。	・子どもとの関係作りを努めている。 ・学年、チームで連携していじめ問題の解決を図っている。	教職員アンケート	96% A		どの学年もアンケートの聞き取りを丁寧に行うことを大切にしている。また、高学年は日記を書くことで些細なことでも日常で相談しやすい雰囲気をつくれていると感じている。
	・めざす学校づくりのために具体的取組を児童から引き出す。	・笑顔いっぱい学校につながる係・実行委員会・委員会活動をしている。	教職員アンケート	91.7% A		新しい生活様式に合わせた児童たちの児童会活動を行う必要がある。本格的な活動が始まるにあたり、全教育活動で教師、友達からのより多くの肯定的な声かけや認め合いで児童の自己肯定感を高めていく。
特別活動健康部(目標に向かって動く子)	・健康を意識した生活をおくる。	・給食を残さず食べる、規則正しい生活をおくるように指導している。 ・給食を残さない、早寝早起き朝ごはんを心がけている。 ・お子さんは食事のあいさつをし、規則正しい生活をおくっている。	教職員アンケート	91.3% A		生活面、食事面において児童、保護者共に生活の乱れを感じる回答結果となった。教師からの声かけや学校生活を続けていく中で、リズムを取り戻してもらおう。また、家庭でのネットやゲームの環境も生活の乱れの要因となっているので、2学期の内にはそれに関する授業などで啓発を行う。そして、特別活動項目を引き上げることと運動して、食事への感謝は給食委員会の活動、規則正しい生活は保健委員会の活動で啓発を行う。
	・全力で運動する。	・体育の時間に全力で取り組めるように目標を提示している。 ・目標に向かって一生懸命体を動かしている。	教職員アンケート	83.4% B		新型コロナウイルス感染予防対策で運動制限がかり、手探りで進める現状での結果。特に教職員側では「どこまで運動させてもよいのか」という戸惑いもあったのではないだろうか。ただ、目標に向けてできる限り頑張っていることでこの結果になったと考えられる。
	・各種便りやホームページなどを通じて、保護者への情報発信に努める。	・各種たより(学校便り・学年便り・保健便り・図書館便り・給食便り)を月1回出している。 ・学年便りは必ず写真を掲載している。 ・ホームページは月1回更新している。	保護者アンケート	85.2% B 85.2% B		学年便り等に、具体的に学校生活の様子が周知できる写真を、個人情報に留意しながら発信していくことを職員で確認し、学校便り以外にもメール配信等も活用し、タイミングを逃さない情報公開を行っていく。ホームページ更新の確認・働きかけを行っていく。

○学校関係者評価委員会より

- ・家庭での検温や学校評価アンケートなどのWebフォームを使うことで、家庭への負担を軽減したり、業務改善への取り組みをしたりして、コロナ禍の新しい学校のスタイルを模索している。
- ・学校の消毒や社会見学など、文部科学省のガイドラインと市教委の指導の下学習活動をすすめている。
- ・特に1年生は、休業期間が長く学力差が出てきていた。徐々に学校に慣れてきていることから、これから学力差が小さくなるように指導をすすめたい。
- ・近年、職員の入れ替えが多いように見えるが、他校と比べても割合は同じくらいである。
- ・校内での先生や児童のあいさつが良かった。
- ・学校の電話対応では、元気な声を心掛けるように指導してほしい。